

『牧師館のスイートピー』

ヘンリー・ドナルド作 舟越カナナ訳 アン・ロス・パターソン絵
すえもりボックス



これはスイートピーにまつわるお話。1911年のイギリスで本当にあったことです。そのころのイギリスでは今よりもっと園芸が盛んでした。あちこちで園芸のコンテストも行われていたので

す。そのような時期に2月20日のデイリーメールという新聞がコンテストの開催を発表しました。最高のスイートピーの花束を栽培したアマチュア園芸家に1位1000ポンド、2位100ポンド、3位50ポンド。100個の銀メダル、900個の銅メダルが用意されました。国中がこの話でもちきりになりました。なぜなら、当時100ポンドでロールスロイスが買えたのです。途方もない額の賞金です。スコットランドで、イングランドとの国境近くにスプラストーンという小さな小さな村がありました。丘の上

には教会があり、牧師のミスタ・フレイザーが奥さんと5歳の娘とともに住んでいました。牧師さん一家は貧しくて、家にはろくに家具もありませんでした。教会に内陣を作りたいと思っていましたが、とてもお金が足りません。ミスタ・フレイザーはアレック・ホワイトに手伝ってもらって牧師館の敷地にスイートピーを作りました。その年は2年目に当たります。土地はツイード川が氾濫して運んできた良い黒土でした。牧師さんは銅メダルがもらえたらとか、内陣を作るお金が手に入ったとか夢に見ます。奥さんは50ポンドあったら家具が取り揃えられるのにと想像します。

でも、国内にはすごいアマチュア園芸家が山ほどいます。花束がスプラストーンからロンドンに届くのは翌日になります。しかも、コンテストには38,000もの花束が届けられたのです。審査は7月28日と29日です。

さあ、1位はだれの手に入ったのでしょうか？

(齋藤好子)